平成30年度 京都市立西舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（全日制）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
(1) 希望進路を実現できる学力の充実・向上の実現	(1) 公開授業の取組や全講座対象の授業アンケートなどを実施し、教員はアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れるなど、授業改善の意識が高まっている。これらの取組を生かし、教員の教育実践力を一層高めることにより、生徒に還元していくことが課題である。	○ 普通科と理数探究科がそれぞれの特色化を一層推進し、西高ならではの魅力ある学校づくりに努める。 ○ 探究活動とアクティブラーニングを取り入れた主体的、対話的で深い学びを推進し、質の高い学力を育む。 ○ 「わかった」「できた」という感動を大切に、さらなる高みへと導く学習指導・キャリア教育を行い、希望進路の実現につなげる。 ○ 文武両道の校風と挨拶をする文化を大切に、チーム西高としてつなげる力を高め切磋琢磨する教育環境づくりを進める。 ○ 命と人権を尊重する態度を育てるとともに、悩みやつまづきを抱える生徒への教育相談や支援を充実させる。 ○ 交通ルールやSNSのマナーについての意識を高める教育を推進するなかで、安全と健康を自ら守る態度を育てる。 ○ 生徒が主体性を発揮して自己肯定感・有用感を高める場面を増やし、また、活躍する姿を広く発信して積極的な学校広報を行う。 ○ 信頼される学校づくりに向け保護者連携を進めるとともに、教職員の同僚性を高めて指導力向上を図るOJTを推進する。	
(2) 規範意識や人権尊重の理念の更なる徹底と生徒の人間力の伸長の実現	(2) 3年生については、進路希望に応じた丁寧な指導を進めることができた。学力向上・進路保障に関して組織的な指導体制の整備と教員個々の指導力向上を図る。1・2年次における学力指導の体制を充実させることが必要である。		
(3) 保護者・地域住民の信頼を高める学校づくりの推進	(3) 部活動では、地道に努力する生徒と献身的な教職員の支援により、積極的な活動が行われ、全国大会や近畿大会・地区大会での活躍が見られた。また、ボランティア活動や学校行事などの特別活動においても積極的な活動が行われた。学業と部活動が両立できるような条件整備を一層進めることが課題である。 (4) 生徒が安心して学校生活を送れ、部活動や諸行事にも積極的に取り組む学校として評価を得ている。一方、挨拶の励行、ボランティア活動の活性化、マナー向上、学校生活になじめない生徒の手立てやいじめ問題の予防対策には引き続き重点的に取り組む必要がある。 (5) 地域社会に貢献し、その期待に応える学校づくりを進めている。今後、見やすいホームページづくりや学校便りなどにより、中学生や地域の方に本校生徒の活躍がよくわかるよう情報発信を充実させる必要がある。		

評価領域	項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	教職員の資質能力を高め、学校全体の教育力の向上を図る。	全教職員が互いに切磋琢磨し、日常的に自己の教科指導力、生徒指導力、業務遂行力の向上させるなど、自立的な人材育成を図るための職場環境作りと研修の場を充実させる。 生徒には、一段高い目標を持たせ、自己の変容を実感できるよう指導を行う。そのために、主体的、対話的で深い学びを推進し、学力の向上・進路希望の実現・特別活動の充実を図る。	A	【成果】 ・高大接続・入試改革を見据えた教育課程の改変、総合的な探究の時間を意識した、教育活動を進めることができた。 ・授業公開週間中の教科を越えた交流、高大接続・入試改革等の研修など、校内研修や個人参加の研修を通して、多くの教職員が教育力向上に努めた。 ・主体的、対話的で深い学びを推進する意識が高まり、多くの授業実践がなされている。 ・学校説明会、学校公開や体験の機会を効果的に実施し、中学生に本校の魅力や伝える取組を積極的に実施することができた。 ・ホームページや学校だよりの充実により、情報発信の質を高めることができた。 【課題】 ・本校の教育力を高めるため、課題の共通理解やその解決に向けての提言と実行、指導法の改善を一層進めていき、生徒の学校に対する信頼度と満足度をさらに高めること。 ・新学習指導要領を踏まえた教育を進め、探究活動の充実など、今後も継続して教育実践力の向上を図ること。 ・SSHの実施計画書を基に、カリキュラムマネジメントをベースにして社会に開かれた教育課程の実施計画を各教科・分掌で検討・作成 ・ホームページを利用した生徒・保護者への緊急連絡発信のタイミングと内容の検討。	
	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	分掌部長・教科主任を核に、本校の課題に対する共通理解を深め、新たな提言や知恵を結集させて運営の一層の活性化を図る。	B		
	学校の取り巻く状況を見据えた学校改革を図る	学校説明会の内容の充実と小・中学校等地域との連携の強化を進める。中学生から選ばれた魅力ある学校づくりを行う。 学校公開や体験の機会を積極的に設けて、情報発信に努め、開かれた学校作りを推進する。	A		
教務部	校務運営	教科指導力向上への取組	研究授業を全教員体制で実施し、実態の把握に努め、主体的・対話的で深い学びに向けての研究を推進する。	A	＜成果＞ ・行事計画や年間計画の見直しを早期に行い行事精選や各分掌の取組を調整する機会とした。 ・時間割変更や特別時間割等に柔軟に対応し、円滑な校務運営に努めた。 ・新指導要領に向けての研修会を実施し、各教科についての変更点や留意点などを全教員で共有する機会とした。 ・全校生徒を対象に全教科について授業アンケートを実施し授業改善につとめた。 ＜課題＞ ・育成すべき資質・能力についての議論を今後さらに深める。 ・各分掌等の取組を把握・整理し効率化をはかる。
		基礎学力充実に向けた取組	各教科での取組を支援し、学習環境の調整・整備につとめる。	A	
		勉学と部活動の両立に向けたシステム作り	行事の精選や各取組の整理をし、両立を妨げないような環境を整える。	A	
		育成すべき資質・能力を踏まえた評価の在り方の研究	新学習指導要領を見据え、新しい学力観に基づく評価の在り方の研究をすすめる。	B	
生徒指導部	安全・安心	安全・安心を感じられる学校づくりをさらに推進する	・自転車施錠率の維持を図る。 ・貴重品の自己管理を徹底させ、校内における盗難被害をなくす。	A B	・自転車施錠率は、引き続き高い数字を維持している。鍵-1グランプリでは施錠率100%（283台）で府内7位/47校中であり、年間を通じて無施錠は1.67であった。 ・体育等の授業でのスマートフォン預け率が、4月当初から比べ悪くなっていることから生徒の危機意識をどのように高めるかが課題となっている。 ・生徒会役員や風紀委員が、毎朝日替わりで挨拶の和を広げてくれた。 ・自転車安全利用推進員の取組は、2・3年生から1・2年生に引き継ぐことができたが、交通事故が0ではない。また、生徒が加害者や被害者となった交通事故後の対応が課題であると考えている。 ・スマホ等の取扱については、1・2年生において、学年主導で指導いただき、学校全体に広がりがつある。SNSのマナーについては、今後も課題ととらえ指導を継続していきたい。 ・いじめの対応については、今後も早期対応に務めたい。 ・台風の影響等で学校祭や支援学校との取組に影響が出たのは残念であったが、学年団をはじめ学校全体の協力のおかげで、できる最大の取組ができたと考えている。学校祭のあらゆる場面で、生徒会を取り込んだことは、成果であった。 ・ボランティアへの参加が、のべ140人と昨年に比べ減少した（特に男子が少ない）。受け入れてくれる施設等の開拓が課題となっている。
		挨拶・ルールやマナー	挨拶を大切にしている生徒を育てるとともに、交通ルールやSNSのマナーについての意識を向上させる	A B A	
	いじめ防止	いじめの予兆をとらえ早期対応を図る	・いわゆる「いじり」行為から「いじめ」につながることを踏まえ、教職員の日常観察の意識を高める。 ・いじめ発生時には早期対応を図り、「重大ないじめ」0を目標とする。	B B	
		自主活動	舞鶴支援学校との交流	・これまでの交流を踏まえ、事前学習を深め、生徒会を中心としてさらに充実した取組にする。	
	ボランティアバンクの活性化		・生徒や教職員のボランティアバンク登録率の向上のための広報を充実させ、年間を通じてより多くの生徒・教職員が参加できる体制づくりを行う。	A	

進路指導部	希望進路の実現	キャリア教育の視点から生徒が主体性を発揮して自己肯定感・有用感を高めることができるようにする。	各種進路行事を通じて、社会で自己実現が図れるようなキャリア教育の推進に努めていく。	B	A	【成果】 ・各種行事や近隣の中学校等との連携事業を通じて、校内外の人たちと繋がる経験をするなど、キャリア教育の推進に努めていくことができた。 ・就職、公務員希望者の1次不調者や進路変更者に対して、速やかに企業と連絡を取り合いながら、進路実現につなげていくことができた。 ・PTAメールやHP等行事や進路状況等を積極的に情報発信することができた。 【課題】 ・模試分析等を有効活用し、十分な生徒の学力保証ができなかった。学年団や他分掌との連携強化及び、生徒の学習や教師の指導のPDCAサイクルを回していけるような支援をしていきたい。 ・進路決定に際して基本となる保護者連携が不足しているような場面があった。 ・全校体制で3年生への指導に当たるに際して、教師間の偏りの調整といった校内全体のバランスの視点から工夫が必要である。 ・大学入試改革・教育改革について情報収集、発信に努め、校内への波及が急務である。
			効果的に模擬試験、進学課外を実施し、生徒の学力伸張を図っていく。	B		
			民間就職、公務員希望者に対する講座、面接指導を通じて、合格内定を獲得する実力を身に付けるとともに、社会人としての自覚を育ませる。	A		
			外部講師を活用して視野を広げるとともに、進路実現のための心構えや突破していくためのモチベーションを高めていく。	A		
指導に還元できる研修の充実	生徒への指導に速やかに還元できるような研修を実施する。	入試改革の動向や小論文指導など先生方の指導の一助となるような研修の立案、実施に努めていく。	A	A		
保護者からの信頼を深める。	本校生徒の努力が十分伝わるような情報を発信し、保護者との連携を進めていく。	進学・就職説明会など、各種保護者対象行事の参加者が増えるような工夫をするとともに、PTAメールはもとよりHPの更新頻度をあげ、有益な情報発信を進めていく。	B	B		
保健部	健康管理	学校に適應しづらい生徒への組織的な対応	担任団・教科担当と連携し、気になる生徒の早期把握に努める。	A	A	学年の要請で開く教相会議に加え定例の会議を設け、学校に来にくい生徒の早期把握・対応に努めた。さらにカウンセラーによる生徒・保護者のカウンセリングの機会を増やすことに努め、得た情報を担任団と共有し生徒に対処した。またカウンセラーの来校の周知のため従来の広報に加え、昼の放送を利用した。その結果、カウンセラーを訪ねてくる生徒が増えた。 熱中症やインフルエンザの対策として日々の広報に取り組み、学校全体に注意を喚起し、その防止に努めた。
			スクールカウンセラーの指導の下、適切な援助を組織的に行う。	B		
			「ほっとる一む」やスクールカウンセラーの情報を『ほけんだより』等で広報し、その活用の推進を図る。	A		
	教職員研修の充実	AEDやストレスマネジメントに関する研修を実施する。	A			
学習環境の整備	落ち着いた学習環境の実現	ゴミの分別と減量化の指導を行う。	B	B		
企画情報部	特色化推進	広報活動・生徒募集	本校の特色を検討する機会を設け、意見を集約・調整し、職員会議で共有する。また中学生の様子や地域・保護者の考えについて、校内に情報提供する。	B	A	・HPは、昨年度より更新数増（1/24現在 部活動39件、理探18件、教科9件、進路12件等、研修旅行20件、他16件等、100件以上あり）、速報性・正確性、頻度を意識し取り組めた。 ・分掌内分担をし、研修旅行生徒は「速報も継続できた。 ・特に部活動顧問から積極的協力が得られありがたかった。 ・HPや西高だよりを通じて学校情報を効果的に提供できた。 ・全教職員、生徒の協力を得て所定の生徒募集行事を実施でき、中学生からの満足度も90%以上得られた。 ・行事日程設定で部活動、他分掌との調整不足があった。
			学校生活における生徒の活躍を、ホームページ、広報紙で迅速かつ活き活きと伝える。	A		
			理数探究科及び普通科の教育システム等の情報を、説明会や学校公開を通じて中学生・保護者・中学校教員向けに効果的に提供する。	A		
	図書館・視聴覚教育	図書館活動の充実	図書館オリエンテーションによる利用マナー向上等、環境整備を行う。	A	A	・1学年向けのオリエンテーションでは、思いやりを持って利用してもらうよう伝えられた。 ・毎月図書館だよりを発行し、新着図書や図書委員のおすすめ本を紹介することができた。 ・不明があるため、蔵書点検を行いたい。 ・図書調べ方や府立図書館の利用についての詳細リーフレットを作成したい。 ・図書館利用をしない生徒のニーズ調査等を通し、利用を促進したい。
			教員・生徒に向けた情報提供に努め、図書館利用の利便性を高める。	A		
			図書委員会活動を通じて、生徒のニーズに応える選書及び紹介を行う。	A		
	視聴覚教育の充実	利用しやすい環境を整え、視聴覚機器の有効活用を推進する。	B	B	・貸出・返却時の帳簿記入の徹底・管理ができるよう、記入しやすい帳簿、返却場所の明示など、管理・利用双方が運用しやすいシステムを構築したが、今後も改善に努めたい。	
		文化芸術活動の推進	文化事業の紹介に加え、芸術鑑賞（2年遠足）、文化祭・西高EXPOの記録・事前指導を通じて、生徒の文化の高揚に努める。	A	A	・文化事業の紹介や芸術鑑賞は滞りなく取り組めた。 ・西高EXPOについて、企画情報部内で担当を3人つけ、文化部顧問会議や生徒実行委員会に参加することで、生徒主体の活動を支援する体制が整いつつある。
西高EXPOの全校体制化を推進する。			A			
情報化推進	学校の情報化推進	事務部と連携し、校内ネットワークの環境整備をさらに進める。	B	B	・教員PCの交換や更新、トラブル対応などは、大きな問題はなくてきているが、より迅速・効果的な対応に努める。 ・Doc1共有内の不要フォルダ等の整理が必要である。 ・お知らせメールは特に問題なく発信できている。 ・配信不良の問い合わせ対応を企画情報部員全員ができるようにしたい。 ・HP学校基本情報について、新ホームページ移行に伴い、更新を行う。	
		Doc1の整理、共有を促し、学校情報のデジタル化を推進する。	B			
	PTAメール・HP(学校基本情報)で学校情報を迅速かつ分かりやすく発信する。	A				
	情報教育の推進	学校・教育の情報化に関する校内研修を行う。	C			
情報科と連携し、タブレットPCの利用促進など、IT機器の教育活動での利用を推進する。		B	・タブレット数を増やし利用環境整備を行うことができた。 ・主に体育・理科・芸術授業で活用しているが、教員間で利用状況を共有、またマニュアル化することが必要。			

理 数 探 究 科	先進的な 理数教育	科学体験行事の充実	科学体験合宿の訪問先を新規開拓し、中高生の科学研究実践活動推進プログラムを効果的に活用する。	A	A A A A B	科学体験合宿の訪問先の新規開拓を行うことができた。生徒の満足度も非常に高い。しかし、今後行程も含めて精選する必要がある。また、2年生で課題研究と地球環境と海の生態系を実施するため、生徒への負担が大きい。今後3~5年をかけて、行事日程を見直していく予定である。 SSHの認定に向けて動いてきたが、4月からの対応は、全校体制で取り組まなければならないので、周知徹底をしなければいけない。 昨年度からカリキュラムの変更で、3年生から2年生に移行した。課題を設定する時に、時間的な余裕をもったが、効果的な使い方ができなかった。中学生に向けて実施した課題研究見学会は生徒たちに自信をつけさせると同時に、課題研究の意義を再認識させることのできた取組であった。今後さらなる改善に向けて計画中である。 大学講師を招いての講演会を行うことができた。課題研究の内容や科学的リテラシー向上につながるような工夫が必要である。生徒の課題意識を向上させて、研究の質の改善を図る必要がある。 発表の機会を多く与えることはできた。一方で発表の形式や聴衆の姿勢などは改善していく必要がある。校外での発表に参加させて、意識を向上させた。 数学グランプリ・科学グランプリに参加することができた。
		課題研究の充実	実験やデータの取り方などを適宜見直して、より質の高い課題研究を目指す。また、評価方法を研究し、指導者間の連携と生徒の活動状況を共有する方法を研究する。本年度は、2年次での課題研究の2年目になるので、円滑な運営と、更に奥深い探究となるように努める。また、京都サイエンスフェスタでの発表も視野に入れた取り組みにする。	A		
		課題研究指導力の向上	大学講師を招いて、教員の意識も高める。高大連携・中高生の科学研究実践活動プログラムを活用して、課題設定段階からの生徒への指導力の向上を目指す。	B		
		発表を通じた言語活動の充実	校内・校外の発表会を数多く経験させることにより、口頭発表・ポスター発表・記録集の作成など様々な形態で体験・研究活動を効果的に他人に伝える機会を数多く設ける。	A		
		科学技術コンテスト参加の奨励	各種科学コンテストの情報を効果的に発信し、参加生徒の発掘に努める。	B		
希望進路 の実現		高大連携の推進	京都工芸繊維大学や、京都大学フィールド科学教育推進センターとの協力体制を深め、新しい高大連携の在り方を検討する。	A	A B B	大学との連携について協力体制を得ることができている。より深く連携していくためのしぐみを検討する必要がある。 理数探究科独自の取組として行う内容を再度検討する必要がある。来年度は、情報数学や課題研究の時間に割り振り、探究活動に関わる時間にしていく計画である。ただし、担当教員の割り振りやクラブとの関係なども考えていかなければならない。 進路指導部と連携した、1、2年生の理数探究科教科担当者会議により現状の把握や改善について協議する場を設けることができた。
		土曜講座の効果的な運用	校内の実情を鑑みて、土曜活用の本来の在り方に立ち戻り、実施回数の精選と、必要に応じた年間計画の改善に努める。	B		
		受験指導力の向上	分掌間連携により、学校全体で取り組む授業力・教科指導力の向上に様々な形で貢献する。	B		
人権 教育	人権学習	様々な人権問題について正しい認識と問題解決のための行動力を培う	様々な人権課題を勘案し、系統的・計画的に推進する。また他分掌とも連携し、時間的にスリムアップを図る。	A	A A B B A A B	11月に全定合同で人権・同和教育研修会を実施し、多くの教職員が参加し、同和教育の成果と手法について学ぶことができた。 人権教育通信human rightsを27号発行し（H31.1月末現在）様々な人権問題を取り上げ、教職員の共通理解を図ることができた。また時代のニーズに応じた学習教材等も紹介してきた。 各学年とも人権学習に取り組んだ。第1学年は子ども兵と子どもの権利について、第2学年は障害者問題について、第3学年は青年の生き方と同和問題についていずれも講演を実施した。人権問題を社会問題として正しくとらえ、生命や人間の尊厳についての認識の基礎を培うことにつながった。 日常生活の様々な場面でより一層人権感覚の深化に努めることが重要である
			時代のニーズに応じた学習教材・内容を研究・検討し、手法の工夫・改善に取り組む。	A		
			人権課題解決の主体としての行動力・実践力を育てる学習を展開する。	B		
	連携	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	学年部・生徒指導部・保健部等と連携し、いじめの防止や困難な条件を持つ生徒の把握・援助に努め、進路保障を図る。	B		
			中舞鶴保幼小中高連絡会等との地域連携を一層深め、就修学の保障に努める。	A		
	研修・研究	全ての教育活動を通じて人権教育に取り組む観点から、人権感覚を日常的に育む。	全教職員が人権教育に対する認識を深め、人権感覚の向上を図る。	A		
府高人研が主催する様々な研修会等に積極的に参加し、様々な人権課題に対する実践的考察や手法等を身につける。			A			
人権教育全体計画に従って、各教科の日常の授業において人権の視点を踏まえた指導を考察し、展開する。			B			
第 1 学 年 部	学習指導	基礎学力を定着させる	各教科担当者と連携し、今後の発展的内容への繋がりを意識した学習内容の定着を図る。	A	A A	[学習指導] 学習への取り組み方がわからない生徒に対し、きめ細かい二者面談を実施し、日々の授業への関わり方、模擬試験の振り返り方法を粘り強く指導した。また、模擬試験を学力点検の機会とし、振り返りシートを導入するなど、日々の学習へのフィードバックを意識させた。総合的な学習の時間での活動を、問題発見及び解決能力を高め、プレゼンテーション能力の向上につなげることができた。
			日々の授業を大切にすることの重要性を認識させる。	A		
			新テストへの移行を見据え、そこで求められる学力をいかに養成していくか、その方法論を見出す。	B		
	生徒指導	基本的な生活習慣を定着させる	約束した時間、規則を守る等、社会生活の基本となる生活態度を養う。	A	A A A	[生徒指導] 安心して過ごすことのできる学校環境の整備維持に向けて努力した。生徒たちは落ち着いた雰囲気の中で元気に過ごすことができた。 [保護者との連携] 初期の段階で学校に来にくくなる生徒が出たが、担任を中心に本人・保護者への連絡を密にし、最後まで見放さない姿勢で指導を続けた。
			コンピューターネットワークとの関わり方を常に点検させるようにする。	A		
			クラブ参加が一年生も任意になったことを受け、より能動的なクラブ活動への参加を喚起する。	A		
	保護者との連携	家庭状況を把握する	クラブ活動と学習の両立を目指す努力をさせる。	A		
			欠席日数の増加等に対して速やかな対応を行い、家庭との連絡を密にして生徒が安心して通学できる状況の維持に努める。	B		

第2学年部	学習指導	基礎学力を充実させる	授業への集中と家庭学習習慣の定着をさらに進める。	A	A	<p>【学習指導】 各担任により、朝、昼休み、放課後の短い時間を活用して二者面談を実施し、模擬試験の振り返り等きめこまかい指導ができた。 進路指導においては、模擬試験等の積極的な受験を促し、毎回振り返りシートに記入させて実力と弱点を把握させた。</p> <p>【生徒指導】 ほぼ全ての生徒が校則を守って規則正しい生活を送っている。研修旅行でのマナーもおおむね良好であった。携帯電話の指導については激減している。今後も引き続き、携帯電話の使い方について根気よく指導していく必要があるが、ルールについて周知徹底できた。</p> <p>【保護者との連携】 各休業中には保護者と生徒と担任での三者面談を実施した。その他気になる事象があったり欠席が続くような場合は担任から保護者へ連絡し、家庭での様子を伺い、学校での状況を報告し、連携をはかった。</p>
			教科担当者と連携をとり、効果的な学習を進める。	A		
	生徒指導	系統的な進路指導を行い、将来展望を明確に持たせる	進路に関する情報を提供し、希望進路（目標）をできるだけ早期に決定し、その目標に向けて学習意欲を高め、学力の向上を図る。	B	B	
			模擬試験、資格試験を通して、自己の実力を把握させ、希望進路を実現させるための学力の向上に結びつける。	A		
保護者との連携	家庭状況を把握する	HR教室等での学習環境を整えさせ、時間を守らせるとともに、公共のマナーを身につけさせる。	A	A		
		服装や髪などの身だしなみを整えさせるとともに、規範意識・人権意識の高揚を図る。	A			
		学校行事等へ意欲的に参加する姿勢を育成する	学校行事、生徒会活動、ボランティア活動等を通して、主体的・自発的態度の育成に努める。	A	A	
第3学年部	学習指導	基礎学力の定着	授業での主体的な学びを通して、自立した学習者へと導く。また、家庭などでの自主的な学習を励行させ、基礎的な学力を定着させる。	A	A	<p>【学習指導 基礎学力】 模試の自己採点や振り返りを徹底させ、対策や復習を学習サイクルに組み込んで、実力養成につなげることができた。また、自分に必要なことを主体的に見出し、計画的に実行できる自立した学習者が、2年次に比べてずいぶん増えた。</p> <p>【学習指導 進路実現】 二者面談や三者面談をこまめに行い、学習の成果や課題を確認しながら、進路希望に向けて意欲を維持させた。また、LHR（独自）を利用した進路学習（キャリア学習）では、受験や就職をゴールとしない将来を見据えた進路展望を持つよう働きかけつつ、社会人としての意識付けを行った。なお、膨大な時間を費やしてこまめな進路指導に努めてはいるが、どうしても限界がある。生徒の進路希望を十分に把握できていなかった場面が一部あった。</p> <p>【生徒指導】 ほぼ全ての生徒が校則を守り、他者を思いやり、節度ある学校生活を送っている。学校行事や生徒会活動・部活動では、リーダーシップを発揮する生徒が多く見られた。また、多くの生徒が、そのようなリーダーを助けつつ、多様な場面で仲間と協働できた。さらに、提言コンテストでは、全員参加を基本方針とし、原稿提出を全員に課した。クラス内予選も行われ、自身の思考を深めるとともに、他者の多様な意見から学が貴重な機会となった。3年間の様々な機会で見識ある市民として行動することを促し、生徒たちも意識して行動することができた。</p> <p>【指導力向上・保護者連携】 部会などを利用して各クラスの生徒の情報共有を徹底するとともに、個々の教員の指導内容をあきらかにした。学級経営等で使用する文書・資料等についても、DC1内のフォルダを利用して共有し、仕事の軽減を図った。これらのことによって、相互に扶助しつつ、人間力や指導力の向上ができた。特に配慮が必要な生徒に対しては、担任以外の教員や関係分掌の協力を得つつ、保護者との連携に努めた。なお、保護者と十分な意思疎通が図れていなかった場面が一部あったことが、今後の課題である。</p>
			進路実現に向けての取組	将来を見据えた進路希望を持たせるとともに、その把握に努め、個に応じた適切な指導を行う。		
		生徒指導	特別活動や部活動等への参加促進と、その活動を通じた社会性や人間力の向上	部活動、生徒会活動、学校行事、特に学校祭の取組において、リーダー性を発揮できるように指導する。		
	遠足などの学外で一般の人と接する機会を通じて、節度ある振舞いを促し、良識ある社会人として行動する態度を育む。			A		
	指導力向上 保護者連携	教職員の人間力や指導力の向上を図りつつ、保護者との連携を進める	日々の取組において、教職員各人が経験を活かしつつ協働し、また、部会などを利用して情報共有を徹底する。これらることによって、教職員の人間力や指導力の向上を図る。さらに、これらの力を保護者との連携で活かし、信頼される関係を構築する。		B	
学校関係者評価委員会による評価	地域住民や保護者は、西舞鶴高生に対して非常に高い関心を持ち、期待している。学校祭等の諸行事や学校が発信する情報を通して、学習活動と部活動の両立を始め、ボランティア活動など様々なことに積極的に取り組んでいると認識しているが、さらに組織的・計画的に運営することにより、地域の基盤を担う教育機関として一層の高みを目指す教育活動に励んでもらいたい。					
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■新学習指導要領を踏まえた探究活動等の教育活動の充実を通して、学力向上・進路保障のために、組織的な取組と指導体制の充実を進め、魅力的な学校づくりを進める。また、常に個々の生徒を丁寧に見てきめ細かく指導し、修就学保障のための対策を地域や家庭と連携し実施する。 ■SSHの実施計画書を基に、カリキュラムマネジメントをベースにして社会に開かれた教育課程の実施計画を各教科・分掌で検討・作成し実践していく。 					

評価 A：十分達成できている（目標以上の成果が得られた） B：ほぼ達成できている（ほぼ目標通りの成果が得られた） C：達成できているとはいえない（成果はあったが、目標に達していない） D：ほとんど達成できていない（ほとんど成果がなかった）